

令和7年度 都立紅葉川高等学校 経営報告

1 今年度の取組目標と方策（☆は重点目標）

（1）学習指導

①目標

思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 授業改善 ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業を通じて、思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。 ・考えさせる発問、考えさせる課題 ・文章や図、表の読み取り、分析、まとめと発表 イ) 英検取得を目標に、英語4技能の育成を図る。文章検定を活用し、読解力・表現力の向上を図る。 ウ) 校内の教員相互の授業見学3回以上とフィードバックと外部の優れた授業見学1回以上で、授業改善につなげる。 エ) Teams等の活用で、将来の働き方に対応する人材育成。	ア 授業改善の取り組み ア) 全教科で思考力の育成を図った。ペアワークの効果的な使い方を検討する。文章検定の導入で、読解力の向上を図った。 イ) 英語スピーチコンテスト等、4技能をバランスよく育む活動を実施した。英検対策講習実施。文章検定は授業内で対策実施。 ウ) 校内での相互授業見学を実施、見学後フィードバックを確実にするためコメントシート作成。 エ) Teamsや学習支援ソフト活用での週末課題等の配信が増えた。
イ 学力向上 ア) 模擬試験や外部テスト等の結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を組織的に行う。 イ) 学年+1時間の家庭学習を促し、フォローする授業づくり ウ) 土曜講習の有効活用と各種相談の充実。 エ) スマスク端末と学習コンテンツの効果的な活用	イ 学力向上への取り組み ア) 学年毎の分析結果に基づいた個別指導実施。 イ) 生徒の学習時間は平均で1時間増加。 ウ) 年間13回実施。 エ) 各階自習スペースにホワイトボードやレターケースを設置し学習ステーションとした。学習の自己調整が課題として残った。

③課題と改善策

- ア 生徒の学習意欲と頑張った経験に個人差がある。学習時間調査を実施することで「やったらできた」を経験させる取組をした。調査結果は向上したものの全体としては基礎学力の向上にまだ結びついておらず、行事前や部活動の試合前などは学習量が低下していると推測される。
- イ 「自主自立」にむけて、組織的に学習内容の定着を図る取組を継続する。面談等で「第一志望宣言」を継続的に活用するため、ポートフォリオになるよう書式を改善した。
- ウ 土曜講習の参加者が少なく、英検は受験者そのものが少なかった。英検を活用することで進路実現に有利になることを生徒に理解させる。
- エ 英語の授業で全ての教員が4技能の育成に取り組む工夫を図った。今後一層の効果的指導に組織的に取り組む必要がある。TGG、JETの活用は継続している。
- オ 授業中のICT機器の活用は進んでいる。今後はスマスク端末の活用が効果的なものとなるよう工夫が必要である。

（2）進路指導

①☆目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図る。各大学等の情報を提供し、生徒が「行きたい大学」を見つけられるよう支援する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 計画的な進路指導の充実 模試結果等を教員が分析し、そのデータを生かした継続的な指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い活用する。)	ア 計画的な進路指導の充実 ○データを用いて大学出願検討会を実施し、三者面談週間に活かした。 ○より高い目標に挑戦した結果、浪人を選択する生徒が増え、4年制大学進学 57.1%に留まった。(R6 68.0%, R5 60.1%, R4 68.5%, R3 63.1%, R2 58.0%) ○担当教員がスタディサポート結果を分析、報告会で共有し、授業で苦手部分をフォローした。 ○一般選抜受験者が増加し、推薦・総合型の受験者は大きく減少した。 一般 85% (R6 65%, R5 55%, R4 48%, R3 38%) 推・総 15% (R6 35%, R5 45%, R4 52%, R3 61%) ○生徒一人当たりの受験校数が平均 1 校減少した。この影響もあり、合格者は減少した。日東駒専以上 60名(R6 68 R5 70, R4 58, R3 20, R2 33) ○水曜英語会等、3 学年希望者の放課後勉強会を実施した。
イ 学習機会の充実 ア) 自習スペースの活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及機会を整える。 イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する。 ウ) 長期休業中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。 エ) 「東部学校経営支援センター支所特別指定校」に基づく外部指導を受け生徒の自主的学習を促進。	イ 学習機会の充実 ア) 都立学校の魅力向上プロジェクト(学力向上)で各階の学習機の周辺を学習ステーションとして整備し、自習用教材を手に取りやすくした。また、図書館を 18:30 まで開館した。 イ) 部活動単位の学習会を複数回実施した。 ウ) 学習コンテンツの有効活用による自宅学習課題の提供及び意欲ある生徒への土曜講習受講を推進。 エ) 指定校として、3 回のアドバイザー会議を受け、組織的進路指導を進めた。
ウ 大学・予備校等が主催する入試説明会に積極的に参加して情報収集を行い、進路指導力を高める。進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。	ウ 上位校の入試で合格者数の管理が厳しくなり、あおりを受けた受験者が中堅校に流れた影響があった。生徒自身が適性に合う入試制度が選べるようにする。 小論文指導を受ける生徒には夏期講習で小論文指導を受けることを必須とした。
エ 大学入試における総合型選抜への対応 「行きたい大学に進学する」ため、筆記試験にチャレンジさせる方針は堅持しつつ、総合型選抜受験への対策のため、TIPS type-4 を活用して総合的探究の時間の充実を図る。	エ 大学入試への対応 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法を探究委員会で検討し、探究活動と「人間と社会」の授業体制を整えた。 次年度は江戸川区や大学等との連携を推進する。
オ キャリア教育の充実 ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、LHR や進路講演会等の行事を通じて将来働くことの意味や生き方を考えさせる。 イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。	オ キャリア教育の充実 ア) 各種進路行事や講演会を実施し、発達段階に応じた将来の意義を考えさせた。 イ) HR 活動を活用し在り方・生き方教育に取り組み、個々の目標を定めさせた。

③課題と改善策

ア 大学受験をする生徒全員受験が受験する模試を設定した。事前学習や事後の分析を一層推進する。進路指導部が中心となり、データに基づいた進路指導体制を構築している。

イ 現在の大学入試に対応できる思考力、判断力、表現力や主体性の育成と学力向上が十分でない。そのため家庭学習習慣はもとより、すき間時間の活用を身に付けさせることが重要である。また、読解力の向上も課題で、6年度に漢検に代えた文章検定では1, 2学年で91名が準2級に合格し(R6 140名)、154名が3級に合格した(R6 122名)。来年度も継続する。

ウ 本校はこれまで推薦や総合型選抜で大学を受験する生徒が多かったが、今年度は一般受験が大幅に増加した。今後、総合型推薦は専門分野について、より高い知識を求められる方向性であることから、生徒が自己の適性に応じて受験型を選び、進路実現に向けて、最後まで自走できるよう支援する。

大学入学共通テスト受験者数 175 名 (R6 172 名)。全国との得点差は縮小傾向である。高い目標をもって挑戦したが、結果として浪人したものが増加した。大学選びの際に幅広い情報を提供して、実力相応校をもう 1 校受験させる必要がある。

エ 「東部学校経営支援センター支所特別指定校」で年3回の外部指導者の指導を頂いた。2学年3学期に提出する「第一希望宣言」で大学受験への自覚を促し、受験科目を見通して科目選択ができるように書式を追加した。日常の学習時間を増やす施策の充実が課題である。

(3) 生活指導

①目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。 イ) 年間3回のいじめアンケートを実施し、記述内容から問題を早期に発見し、速やかに解決を図る。 イ 美化活動 ア) 日常的な美化活動に努め、校舎内の環境整備を進める。	ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールを生徒に周知し生徒が自主的に適切な使用方法を身につけるよう継続した。 イ) 年間3回のいじめアンケートで、いじめが疑われる時には担任が面接し確認するとともに、臨時のいじめ対策委員会を開き速やかに対応した。 イ 美化活動 ア) 生活指導部を中心に、生徒会の美化委員会を中心に校内の美化をすすめた。

③課題と改善策

ア SNS等による問題行動が数件起きた。いつでも起こりうることを認識し、情報モラルの指導をあらゆる機会を通して、継続して行う必要がある。

イ いじめを疑われる案件があり、いじめ対策委員会の協議を受け、人間関係のトラブルとして学年が介入した。いじめはいつでも起こりうることを認識し、生徒の様子を注意深く観察していく。また、教育相談委員会での見守り等の必要な生徒についての情報共有が定着した。担任、養護教諭、SC及び生活指導担当による対応の組織化が進んだ。

ウ 学校全体として、生徒の身だしなみは落ち着いているが、女子生徒の一部はスカート丈が短く化粧をしているなど、身だしなみ指導を継続する必要がある。指導する基準と対応について、学校全体での共通認識が必要となる。

エ 校舎等の老朽化がすすみ、破損や汚れ等も目立つようになっている。大規模改修への道筋が立たない中で、小規模で短中期的な美化活動計画を策定し、教職員、生徒が協働して進めていく。

(4) 特別活動・部活動

①目標

他者の話しをよく聞き、自らも伝え、異なる意見をもつ者同士が行事や部活動の目標の実現に向けて協力し、やり遂げる経験を通して、人間関係調整力、自己肯定感、主体性を高める。諸活動を通して共同体意識を醸成し「相手に何ができるか」を考える人材を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 学校行事 ア) 体育祭、文化祭等及び合唱祭では実行委員会を中心に生徒が主体となって活動する機会を多くする。	ア 学校行事 ア) 3大学校行事である体育祭、文化祭、合唱コンクール及び球技大会を問題なく実施できた。

イ 部活動 ア)安全を管理するとともに、生徒の自主的な活動を支援し、コミュニケーション能力とリーダーシップを育む。 イ)「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に則り、練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。 ウ) 部活動指導員・外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を図るとともに教員の負担軽減を目指す。	イ 部活動 ア) 練習や試合でのけがを防止し、大きな事故なく実施した。野球・陸上・サッカーの各部員に学校を代表する部としての意識をもたせた。 イ) 下校時刻は 16 時 50 分であり、最終下校時刻 19 時 30 分は上限であることを意識させた。 ウ) 外部指導員 4 部 4 名 (R6 同数) と部活動指導員 10 部 14 名 (R6 9 部 10 名) で各部の技術指導を充実。教員の働き方改革につながった。
ウ 地域との交流活動の活発化 地域や施設行事等への参加や手伝いを行うとともに特別支援学校・小学校・中学校と交流活動を行う。	ウ 地域との交流活動の活発化 地域の町内会のもちつきに陸上部が、小学校ではメイプル部がボランティア活動を行った。小学校の地域探検を 2 度受け入れた。
エ 学校 2020 レガシーの推進 オリ・パラ 5 つの資質の育成を継続し、共生・共助社会の形成を担う生徒を育成する。 ア)アスリートとの交流活動を年間 1 回以上実施 イ)グローバル人材育成のために「海外学校間交流推進校」の施策を通して、海外の生徒や海外にルーツのある生徒との交流等を行い、国際感覚を育てる。	エ オリ・パラの資質を育成して、共生・共助社会を作る生徒を育てる施策を行った。 ア) 全員でのアスリートとの交流は実施できなかったが、プロラグビーチームの試合でチアリーダーグ部が演技を披露するという交流ができた。 イ) 海外学校間交流推進校として、チェコの生徒 60 名と引率教員、ハンガリーの教員 1 名の受け入れを実施し、生徒 320 人が参加した。また、その成果としてチェコ共和国ピルゼン県から公式に招待を受け、校長と理科主任がロボット・コンペティションを視察した。

③課題と改善策

- ア 体育祭・文化祭・合唱コンクール及び修学旅行では、クラスをまとめた実行委員に成長が見られたが、委員以外の生徒の協働性を高める必要がある。行事を通じて、校訓に通じるリーダーシップ・フォロワーシップを育み、立場を変えながら「全体のために自分は何ができるか」を考えて行動できる生徒を育てるよう指導していく。
- 仲間と一緒に行事や部活をやり切る経験を、受験や将来に向き合う覚悟になるように育てる。
- イ 部活動では高い加入率を保ち、必要に応じて感染防止対策を講じての活動となった。
- ウ 12 名の部活動指導員が会計年度任用職員として勤務し、部活動の技術力の向上に加え、教員の業務軽減にもつながった。今後は引率業務を行うなど、一層部活指導に力を発揮してもらうことを期待する。
- エ 今後も、生徒と有識者の触れ合いを通して 2020 レガシーの推進を行う。「海外学校間交流推進指定校」としては、チェコ共和国ピルゼン県の高校生が 20 人ずつ 3 回にわたって本校を訪問し、320 人以上の本校生徒と交流した。これにより、校長と教員がロボット・コンペティションに招待され、現地の高校との連携に道筋をつけた。また、ハンガリーの教員が本校を訪問し、英語の授業に参加した。世界共通言語としての英語を感じさせることができた。次年度は東湖からの訪問予定があり、グローバル人材育成を継続する。
- オ また、小学校との交流で、共生・共助社会を作る生徒を育成した。多様な生徒の入学を想定し「学校生活支援シート」の理解と活用を進める。

(5) 学校経営

①目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を組織的にを行い、生徒が自己の成長を感じることができる学校とする。

また、生徒の状況を把握して合理的配慮を行う等、誰一人取り残さない体制を整え、必要な支援を行う。また、生徒の安全・安心な学校生活を支える教職員自身のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 人材育成 ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。行事等を実施した後は、生徒・教職員対象のアンケート等を行い、課題を明らかにする。 イ) 主幹教諭、主任教諭から教員等への指導を徹底する。	ア 人材育成 ア) 各行事の担当がアンケートを実施し、振り返りを行った。課題解決策を次年度の計画に反映する。 イ) 若手教員育成研修対象者に対し、研究授業などを通じて丁寧な指導を行った。
イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は 50 分を上限とする。) イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。	イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 企画調整会議を効率的なものとし、職員会議は 50 分以内とした。 イ) 電子起案は徹底されている。起案していないものはないか点検と管理を継続していく。
ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす 部活動で外部顧問を活用し引率や指導を必要最少の人数で行いライフ・ワークバランスを確保する。週 1 回の全教職員午後 5 時台の帰宅を目指す	ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 12 名の部活動指導員及び 2 名の外部指導員を活用し、教員の負担軽減を図った。 イ) 勤務時間以外の在校時間が 80 時間以上の教員に対し、必要に応じた面接を行った。 ウ) 週 1 日 5 時半退庁を奨励し 1 月 95.6%となった。
エ 服務事故防止に努め、信頼される学校を作る。 ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いにはルールを遵守する。 イ) 部費の管理をルールに基づき、適切に行う。 ウ) 服務事故防止研修を年間 2 回以上開催するなど、体罰・暴言他、信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。	エ 服務事故ゼロを目指して周知と研修を行った。 ア) 考査等の時期の朝打ちで、ルールに基づいた取り扱い複数チェック等の徹底を周知し予防した。 イ) 部費は適正な管理とチェック体制が構築された。 ウ) 人権意識の醸成を図るべく、打合せ等での周知を繰り返し行った。
オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。 イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。 ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応するとともに、老朽化した敷地内のリノベーションを進めて、来客を温かく迎え、在校生が誇れる校内環境を整備する。	オ 適正な予算執行と施設管理を複数確認で徹底。 ア) 適正な会計処理を行った。 イ) 授業料や学校徴収金の管理は適正に行った。 ウ) 破損や老朽化による不調は生徒の安全を第一に速やかに対応した。長年放置されていた更衣室の天井の穴を修理し、生徒ホールのブラインドを撤去した。像回収要望の結果を待っている。

③課題と改善策

- ア 教員経験の浅い若手教員が多い職場なので、様々な職務を経験させ、教師としての力量を高めるとともに、今後も OJT の中で人材育成を図っていくことが今後も重要となる。
- イ 部活動指導や教材研究、生徒指導に熱心となり、在校時間が長くなりがちな若手教員が多い。仕事の効率化を意識させるとともに、産業医面接を有効に活用する。時間的負担の軽減も図る。
- ウ 今後も体罰・暴言の防止、個人情報の適正な管理等を徹底し、服務事故のない環境づくりが必要である。
- エ 校舎は築 41 年を迎え、老朽化が目立ってきた。特にエアコンの整備とは急務。造改修計画の実設計が行われた。生徒の快適な学習環境の維持のために、短中期的な計画に基づく整備が必要である。

(6) 募集・広報活動

①☆目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 情報発信の強化 ア) ホームページ等のリニューアルと更新頻度の向上	ア 情報発信の強化 ア) 体育祭・文化祭・合唱コンクールや修学旅行等

行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子を実施後7日以内に掲載する。 イ) 保護者への情報発信 保護者コミュニケーションシステムClassi 東京都版を活用し、保護者との情報共有を円滑にする。	の行事、各部の活動の様子など、生徒の様子がわかる内容を掲載した。 イ)Teams 連絡と保護者連絡システムを活用した。
イ 募集対策の強化 ア) 中学校及び学習塾への訪問を必要に応じて教職員で行う。また、生徒には高校生活の様子の報告をさせるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。 イ) 学校説明会や授業公開を年間6回実施し、行事や説明会等への参加者数のべ4000人を目指す。 ウ) 部活動見学会の実施や、地域行事への参加を通じて、江戸川区内の中学生に本校生徒の美点を印象づける。	イ 募集対策の強化 ア)教務部総務担当と広報委員会が中心となり外部説明会を活用し、学校行事や本校で実施する学校説明会に案内するとともに、中学校・塾への卒業生訪問を実施した。 イ) 学校説明会参加者合計 2658 名 (R6 2341 名) ウ) 部活動見学会を実施し、中学生が練習を見学する機会を設けた。 【入選応募倍率】 推薦入試 R6 2.67 (R5 2.89, R4 2.45, R3 3.76) 一次応募 R6 1.10 (R5 1.50, R4 1.24, R3 1.63)

③課題と改善策

ア 学校の生徒の様子が分かるように、HP を充実させた。

イ 教務部総務担当と広報委員会が中心となり外部説明会を活用し、学校説明会に誘導した。説明会では生徒が部活動単位で案内・受付を務めたことで本校生徒の明るく元気な姿を見せることができた。学校案内は分かりやすい形式を継続した。安心して通える学校として地域からの評判を定着させられるよう、丁寧な生徒指導を今後も継続していく。

イ 応募倍率の低下対策として、管理職等が塾を訪問した。江戸川区内は本校生徒が通っていた塾も多く、本校生徒はおおむね評判が良い。江東区内での認知度を上げる必要がある。

また、私学と比較されることの多い施設・設備面では、特にエアコンの老朽化、トイレの臭気について、学校評価アンケートや学校運営連絡会でも繰り返し指摘されている。必要な施設改修を申請しながら、それが叶うまでの間の対策を実施する。

(7) 安全・防災・健康教育

①目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 防災訓練 避難訓練を年間4回実施し、災害時における初期の基本動作を身につけさせる。また、江戸川区、消防署及び、地域と連携した防災教育を推進する。	ア 防災訓練の充実 実際の避難経路の確認、地域と連携した防災教育を行った。
イ 交通事故防止 セーフティー教室等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険への加入を義務化する。また、全校生徒のヘルメット着用の徹底をすすめて自転車安全教育を推進する。	イ 交通事故の防止 自転車通学者の自転車保険加入及びヘルメット着用を自転車登校の必須条件とし、交通安全月間に合わせて投稿指導を実施した。
ウ 健康管理及び教育相談 ア) 教育相談委員会が中心となり、生徒の心理面の健康を保持、増進する。生徒に関する情報を共有するとともに、問題の解決に当たる。 イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用するとともに、SOS の出し方を年3回以上伝える。 ウ) 生涯スポーツの観点をもって体育健康教育を実践し、運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康	ウ 健康管理及び教育相談 ア) 毎月の教育相談委員会で、学年、スクールカウンセラー、養護教諭で情報共有を図り、早期の問題解決につなげた。 イ) S C による教育相談に関する校内研修を1回実施。SOS の出し方はいじめアンケートと合わせて LHR で実施した。 ウ) 授業及び生徒会主催の球技大会等を通し、生

で活力に満ちた生活をデザインする資質・能力を育成する。また、これにより生徒の体力の向上を目指す。	徒自ら生涯スポーツに向き合うよう奨励した。
--	-----------------------

③課題と改善策

- ア 教育相談委員会を通して、相談体制の充実を図り、早期に問題を解決できた。この体制を維持していく。登校日数が不足した生徒が通信教育を申請した際の対応について、教務内規に定めた。組織化することが課題である。
- イ 自転車登校の生徒を対象に安全指導を行った。道路交通法の改正に向けて、自転車の乗り方指導は今後も繰り返していく必要がある。
- ウ 運動量のある球技を授業で取り入れ積極的に活用。運動が得意ではない生徒の運動の機会をどのように保つかが課題。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	R 7 年度	R 6 年度	R 5 年度
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	80%	85%	87%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	86%	85%	88%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	86%	89%	82%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	86%	88%	89%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	85%	88%	90%

②生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	R 7 年度	R 6 年度	R 5 年度
ア 4年制大学進学率	70%	57.1%	64%	60%
イ 日東駒専の合格者数	35名	52名	59名	34名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	8名	1名	3名	5名

③生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	R 7 年度	R 6 年度	R 5 年度
ア 推薦による入選の応募倍率(男女平均)	3.2倍	2.95	2.67	2.89
イ 学力検査による入選の応募倍率(男女平均)	1.6倍	1.15	1.10	1.50

④生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	R 7 年度	R 6 年度	R 5 年度
ア 1・2学年家庭学習時間：平日1時間以上の割合(生徒アンケート結果)	50%	1年86.2%	1年29.9%	1年18.3%
		2年94.0%	2年18.9%	2年13.1%
イ 部活動加入率(5月1日時点)	90%	83.0%	79.8%	88%